

超ハイテン材対応のミニレベラー

小山SCCに導入

五十鈴関東

車体軽量化ニーズに対応

五十鈴グループ（本社・東京都千代田区、社長・鈴木勝氏）は超ハイテン材の加工能力の強化を進めている。北関東地区でコイルセンター事業を展開する五十鈴関東（本社・栃木県小山市、社長・太田博英氏）の小山サビ

に備えて営業強化と加工技術の向上に注力す

し、自動化・省人化を可能にする機能も備えた。品質面ではハイテンの残留応力を軽減・均一化して、優れた平坦度のシート製品の加工が可能。また、入側のアンコイラーにはコイルエンドの内径疵を

防ぐ自動小径化機能なども搭載されている。超ハイテン材は、重量物であるバッテリーを搭載する電気自動車やハイブリッド車などの車体軽量化に貢献する部材として近年、ニーズが高まっている。

太田社長は「小山SCCは自動車向け比率が大きく、ユーザーからの超ハイテン材のニーズが年々高まっている。またミニレベラー以外にも大型レベラー、スリッター、シャーリングと多種多様な加工設備群が充実している。厚物から薄物、軟鋼から超ハイテン材まで幅広いニーズに対応していきたい」と話す。

五十鈴グループのSCで超ハイテン材対応のレベラー導入は五十鈴東海の安城SC、岐阜SCに次いで3拠点目で、関東地区では初となる。

ビスセンター（SC）は、最大150キ（1470^{メガパス}）級の超ハイテン材加工に対応した最新のミニレベラーを導入した。写真。自動車向けを中心に、域内における需要拡大

る。導入したミニレベラーはクレーン工業の小型ラインで、板幅は1000～800ミ、長さ2000～3000ミ、板厚は0.5～3.2ミに対応。シャーリングはロータリーアップカッター形式を採用



の小型ラインで、板幅は1000～800ミ、長さ2000～3000ミ、板厚は0.5～3.2ミに対応。シャーリングはロータリーアップカッター形式を採用

